

通算五十三回への修了生三、八八〇名、全国官民の間
間に在りて社会政策の新鋭なる推進力となつた。終
戦後萬難を排して再開し、労働問題の新事態に即す
施設に改善し、新年度に於ては、東京の外地方に二
講座を聞く計畫を樹けた。

(六) 講習會、講演會、研究會等 本會廿七年史を通し

て、社会の改新と労資の啓蒙等に盡した不撓の精進
は、本邦の社会政策の實施に偉大なる貢獻を爲した
のである。現に社会政策研究會からは、空襲下に於
て尚ほこれ繼續し、又大阪支所に於ては「労働問
題研究會」と新設したのである。

(七) 協調會館 労働館は、本邦労資問題に関する會集の

殿堂として斯様に雄視して來た。戦時中堅牢建造物
なる故に他に轉用せられ、且つ椅子等の調度品も罹
災にあつたが、終戦後運輸省からの返還を促し、戦
災援護會、後に中央労働委員會等に事務所を提供し、
更に七月を期して公開する準備を整へ、これまた関
係方面に報告してあつた。

以上本會事業の主要なるものを摘記したか、これ等事
業の效果については、六月三日の懇談に於てコーエン氏
に推賞し、新団体の成立としてこれにその更生を希望され
たのであつた。即ち理事會に於ては、資産寄附の附帯希
望事項として「本會資産の寄附については、本會の事業並
かに職員を原則として中央労働學園に継承方を協定する